

高齢者施設等における食を中心とした ボランティア

学科・専攻： 関西福祉科学大学
福祉栄養学科
担当教員： 澤田 崇子、有泉 みずほ

連携先：

柏原市、八尾市等の高齢者施設（令和5年度は
東大阪市、太子町の高齢者施設で連携）

プログラム内容

柏原市・八尾市等の高齢者施設の入所者やその家族に対して、学生が食を中心とした支援を通して、地域の福祉施設のニーズに貢献するとともに、学生自身も高齢者の実態や高齢者施設の役割を知り、今後の学びに活かすことを目的とします。令和5年度の具体的な活動内容は、①高齢者施設でのレクリエーションの手伝い等を通して、要支援・要介護者の方々の食事支援や介助の支援、②施設行事の食事で利用できるメッセージカードや食育だよりの作成を行いました。

成果・考察

当該プログラムは、管理栄養士養成課程の学生にとって、3年から開始される学外実習を高齢者施設で行う機会があるため、事前にボランティアに参加することで円滑に実習が出来ることを期待しています。さらに高齢者施設での要支援・要介護者や施設スタッフとのふれあいの中で、栄養士専門職としての学びやコミュニケーション能力の重要性に気付くことができます。①については施設側からのボランティア要請に応じ、学生希望者（2・3年生）が参加しました。

令和5年度は「夏祭り」「秋祭り」の行事に参加しました。参加学生からは、いろいろな年齢の方と交流が出来、施設職員や管理栄養士の方と会話が出来たことが嬉しかった。自主性や協調性が磨ける良い機会になった、などの感想がありました。②については施設で実施されるクリスマス会用のメッセージカード作成を行ったり、1-3月の食育だよりの作成をして施設に届けました。メッセージカードや食育だよりの作成では、高齢者に喜ばれる内容、見やすさ、季節感、提供する意義、作業効率などを考えて行いました。施設からの感想は、利用者の方がメッセージカードを喜んで眺めておられること、食育だよりは色で変化をつけて見やすく作られていること、また説明文章も長すぎること無く、読みやすいとのことでした。コロナ禍以前は①については、近隣の多くの施設でボランティアを行い、②では学生から利用者へ直接手渡す機会がありました。従来状況に戻れば、学生の活動の場が増えることが期待できます。



関西福祉科学大学
福祉栄養学科
教授 澤田 崇子

①の高齢者施設での活動を、数年振りに実施することが出来ました。体験することで、挨拶、笑顔、コミュニケーションをとることの大切さに気づくことが出来ると思います。与えられた業務を円滑にこなすための工夫も楽しい雰囲気の中で身につけることができます。参加して良かった、またやってみたいと思う学生が増えることを願って今後も取り組んでいきたいと思えます。



関西福祉科学大学
福祉栄養学科 2年生
中西 真帆

私は高齢者の方に読んでいただく「2月の食育だよりの」をグループで作成しました。食育だよりのを通して「何を伝えたいのか」「この文章で伝わるのか？」など何度も話し合いました。また見た目を工夫することも大切だと分かりました。作成しながら、グループで相談することは、自分になり発想や意見が知れて良い経験になりました。出来上がった食育だよりを利用者様に観て、楽しんでもらえたらうれしいです。